

健康診断の結果を受診当日に出し、結果に応じて健康教育も行う「啓発型健診」の試みが18日、弘前市の弘前大学医学部で行われた。今後、検証を重ねて、来年春に弘大が開設する「健康未来イノベーションセンター」で実施し、地域住民の健康増進につなげる。

（鎌田秀人）

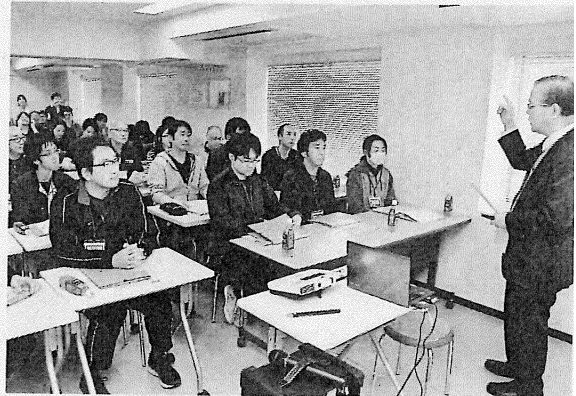
文部科学省などによる研究プロジェクト「COI（センター・オブ・イノベーション）」の参画機関が開発。この日は医療機器販売を手がけるシバタ医理科（同市）の社員約70人が受診し、採血や尿検査のほか、内臓脂肪や歯科、運動機能、認知機能などを調べた。

受診者は、健診開始から2時間後には結果を受け取り、動脈硬化や骨粗しょう症などに関する講話を全員で受講。「歯科口腔」などテーマ別に、専門スタッフによる個別指導も受けた。

受診した弘前市の高沢典夫さん（42）は「運動の大切さなど知っているようで知らないことも

健康結果知る学ぶ

健診即日



健診結果を手に、中路教授の講話に聞き入る受診者

短命県返上へ 弘大で試行

あった。学んだことを今後の生活に生かしたい」と語った。

弘大は受診者に毎月2回、6カ月間にわたり健康に関する情報も配信し、健康づくりを促して効果を検証する。弘大COI

拠点長で、研究を統括する中路重之教授は「医療費が増大する中、自分の健康は自分で守る時代になる。啓発型健診で、県民の健康教養を高め短命県返上につなげたい」と意欲を示した。